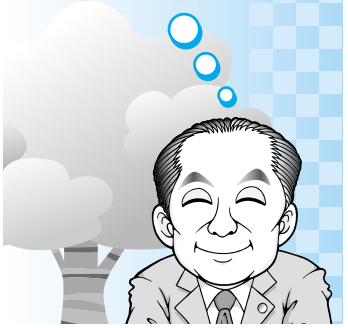
Vol.7

町長の一言



つくし作業所入所式

4月は学校や職場で、入学、入社、入所などいろいろな形で式が行われ、新しい年度のスタートを切りました。

城里町福祉作業所「つくし」も4月初めに今までの入所者12名に新たに2名の入所者を迎えスタートすることができました。

作業所「つくし」は合併前より、各町村共同で運営していたものでありますが、引き続いて城里町として継続できたことは、大変よかったと思っております。

心身に障害を持つ方々が、例えば養護学校等を卒業した後、家庭を出て働ける場所が非常に少ないのは事実だと思います。

嬉しいことに4月1日に小勝地区に、やまびこの里福祉会の施設「かしの木」が開所しました。公共施設ばかりでなく、このような民間の施設ができることは、障害者やその家庭にとって選択の幅が広がってその機会が増えることで大変良い事だと思います。設置者に敬意を表したいと思います。

つくし入所者達は、正月のまゆ玉作り作業などでも一緒になって顔見知りになっていましたので、毎日元気に作業所へ通ってくれることを期待しながら入所式を終えました。

この内容は、町ホームページの「町長の部屋」の中でも掲載しています。ぜひご覧ください。

文芸しろさと

俳句

辛夷咲くころはやさしき土の色　飯田勇一

蕗の薹苦しと思ふ朝餉摂る　山崎正行

鍬入れし莢豌豆の青さかな　仲田こう

せせらぎの近くに広げ花筵　仲田まちゑ

夕空に時報のひびき日脚伸ぶ　飯村愛子

春袷紺あざやかに仕立てけり　和田範子

沈丁花仕出し屋に茶干してあり　鯉渕寿美恵

白鳥の北へ帰る日鴨さみし　いそべきよ

山の風野の風花の雨となる　阿久津あい子

マングローブの森へ漕ぎ出て風光る　今瀬多代美

ひっそりと灯る母が家辛夷咲く　飯村昭子

藪椿芯がっしりとして吹かれ　田所厚子

きびきびと上棟手順風薫る　高橋芦江

夫送り出してかがめりクロッカス　竹内幸子

佇める尼寺跡広し揚雲雀　瀬谷博子

短歌

髪切ってかわいくなりし傘寿なる吾は初春を孫らと羽根つく　山形式妙

我が国の誇りの一つ皇統を守らせ給えと民草祈る　藤原千代

寒月の蒼きまで冴ゆ亡き母の姿映せよ鏡となりて　青柳京子

晴れわたる涸沼に舟が点在す風物詩なる寒しじみ取りぞ　秋山愛子

湯気立てて煮豆は大釜に泳ぎぬる味噌を作らむ早春のひと日を　大森久子

それぞれの洗濯ものを畳みつつ離れ住む男孫の生活を思ふ　佐川あや

真面目には馬鹿がつくらしそれなりに正直と言ふ宝も在りぬ　杉山みちこ

良き死とは良く生きることと思ひつつ「八十三歳」の残生にあり　宮本ふみ江

母の忌に五十年振りなる琴の音が聴こへますかと語りて香たく　所美恵子

平凡に生きていることの幸せぞ結婚記念日過ぎておりたり　山口栄

亡き母の好みし蕗のとう摘みて春の香りを霊前に捧ぐ　阿良山ウメノ

早や五月めぐる月日の早やかりし今満開の桜花かな　市川義子

青い空ネモフィラの青青い海海浜公園見晴らしの丘　岩下通子

戸を揺する人は何者怖れつつ夜を寝ねずただに朝待つのみ　薄井ひろ

風冷たきやよいの夕餉もふき味噌の淡き香りに食む心募る　枝不美

ここしばし忘れてをりし「うたごころ」をかきたてるやうに梅の花咲く　片見和枝

山に向かひ「春ですよ」と呼びかくるごと一斉に咲けり「コブシ」の花は　川上千代子

如月に征きたる兄を見送りし駅舎今無く兄は還らず　島愛子

リハーサルも切々と読みゆく女孫の送辞本番を想ふとき教師に還る　多田志保子

今年また八十路の肩に税重しようやくすませて義務を果たせし　坪井きよ子

氷上に舞い降り来たる妖精か人わざの極み荒川静香　萩谷登喜子

節句済み桃の花散りて春風舞う日本の国花桜待ち佗びる　和知美智子

寒に耐えてようやく咲きくれし福寿草の小さき黄花は春の前ぶれ　冨田佐智子

川柳

介護する部屋にやさしい春の風　山本隆荘